

2024年度組織代表者会議と 50周年レセプション終わる

日退教通信

No. 413

2024.7

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六―二 日本教育会館6F
 発行責任者 竹田邦明
 TEL 03(5)275)2197 FAX 03(5)275)2081
 Email nritaikyo@gmail.com ホームページURL http://www.nritaikyo.com



竹田会長

日退教は、昨年9月に結成50周年を迎えましたが、各単会の代表者が集まる2024年6月7日の組織代表者会議の後に、50周年レセプションを実施することにし、昨年から実行委員会で、検討準備してきました。
 組織代表者会議は、総会と1年交代で行われ、各単会1名の代表とブロック女性代表9名で構成されます。
 今年は、来賓あいさつをレセプションでお願いし、日教組政策局次長の薄田綾子さんから「働き改革」の講演をしていただきました。
 議長は竹田正夫さん（東北ブロック代表）と添田悦子さん（関東ブロック女性代表）が行いました。
 発言者は18名でしたので、発言内容の概略を報告します。



水岡俊一日政連参議院議員

秋田退教 篠田正史単会代表



昨年7月の水害にお見舞いをいただき感謝している。各支部とメールでやりとりして思ったのだが、書類を郵送だけではないか。メールを活用したらいいのではないか。

北退教 筒井比呂志単会代表



あの悪名高い長谷川岳が、北海道、札幌の職員を東京に呼び、お金を使わせたことの原因が、再生可能エネルギーであったことをふまえ全国の支援をお願いしたい。

今後の日程

- 9月4日(水) 13:00 日本教育会館
地公三単産・地公退高齢者集会
(終了後、女性参加者の集い)
- 9月5日(木) 13:00 文京区シビックホール
退職者連合全国高齢者集会
(午前中、日退教・退女教合同の政治学習会)
- 10月10日(木) 11:00 五者学習会
ラポール日教済(終了後、役員会)
- 10月11日(金) 10:00 日退教組織活動交流集会
ラポール日教済

石川県退教 角三外弘単会代表



地震の際のご支援、激励に感謝したい。5カ月たっているが復旧は進んでいない。退教会員も亡くなった。石川では毎年、「原子力防災訓練」を実施しているが、原発5キロ圏内の居住者はほとんど高齢者で「自分達で終わらだか

ら、逃げなくてもいい」という。避難計画ではバスが迎えにきて一時避難所へ行くことになっているが、絵に描いた餅にもならない。今回、奥能登は道路が崩れ、救援に入れない状況だった。港の海底も隆起して船も使えない。「志賀原発を廃炉に！」訴訟を闘っているが、六月三〇日に金沢で全国集会を持つ。全国連携で取り組んでいきたい。

新潟県退教

大坂和夫単会代表



地震に際して、皆さんからのご支援に感謝したい。本

県会員でも半壊、損壊の被害が報告されているが、会員同士の助け合いで、連帯感を強めた。新潟には世界最大級の柏崎刈羽原発があり、再稼働を検討中だ。新潟は富山の海を隔てて能登半島にも近い。これから動くだろうという佐渡の近くの活断層もある。新潟ではかつて、住民運動によって巻町の原発建設計画を阻止した。全国の皆さんと連帯して運動を構築していきたい。

沖縄高退教

安次嶺美代子単会代表



辺野古への支援に感謝し、新しく変わったことを報告

する。4月の強制代執行の後、工事用トラックの出入りが第2、第3ゲートから第4ゲートの方に変わってテント前からバスで移動するようになった。埋め立てが進んでいるように思われているが、軟弱地盤があり埋め立ては14%しか進んでいない。ここに1日2000万円の防衛費がつぎ込まれている。日本の防衛費の半分近くが予算がつかないか疑念が残る。地方自治の破壊にも繋がる問題で、全国の仲間といっしょに闘っていきたい。

宮崎県退教

土岐宗春単会代表



資料では、「防衛装備移転3原則」と運用

の議論を経ず決定し、「戦争を煽る国」へと変貌している

と批判し、安保3文書に基づく防衛産業強化法、兵器や軍事技術の輸出規制緩和と政策に反対するとあるが、立憲民主党は賛成している。「教え子を再び戦場に送らない」ために、この法律が拡大解釈され、武力で解決する方向に行くのを懸念している。立憲にも日退教の立場で要望してほしい。

千葉県退教

平野直比古単会代表



少子化対策として公的医療保険のお金を他に回そうと

している。防衛費を43兆円ふやしてつかおうとしているのだから少子化対策の金もこれをまわすべきでないだろうか。

山口退教

山田久雄単会代表



宮崎の発言に共感する。大企業の内部留保はどんどん

増え、太っているが、労働者階級が分断されているなか、団結が必要。若い人は、戦争は嫌だと言っているし、苦勞

している庶民が戦争に動員されないために、立憲民主党、国民民主党、日退教に希望を持つている。「教え子を再び戦場に送らない」ために運動を粘り強くやっていく必要がある。

鹿児島高退教

小原健単会代表



福島学習の旅と日退教通信の報告に関して

2011年3月11日の東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校では学校にいた78名中74名が津波にのまれて亡くなった。法的責任を問うと遺族が起こした訴訟で、「先生の言うことを聞いたのに」ということがクローズアップされた。職員のまとまり、職員会議ができていなかったことが明らかになった。学校が子どもの命の最後の場所になってはいけないことを確認したい。

都退教 谷口滋単会代表



7月7日の都知事選について小池都政は8年間都政を

私物化してきた。連合は判断しないが、都退教は連舫支持でまとまっている。東京には2000人以上のアイヌの人が住んでいる。10万人以上の署名を集め杉田水脈議員の差別発言への罰則規定をもうける運動を展開中である。



団結がんばろう!!



でも国際司法裁判所が停止命令を出しているので、国際法が守られるようにしなければならぬ。



高知退教 門田権四郎単会代表

日教組から2025年7月の参議院議員選挙では日政

会でもこの問題を特別決議としてあげていく。

分子分の関係、差別が残っているなど、変わっていないことが多い。昭和22年に新憲法が施行され、廃止されたはずの家父長制が現実に残っているのは教育、啓発が浸透してないため。徹底的に課題について話し合い、ヤングケアラーの問題など、解決に向けて具体的、系統的な取り組みが必要だ。

北海道ブロック

山根正子女性代表



今日のよな会議に女性を増やすことを主張し続けて

には高校生も入っているが、積極的な子だけではなく、不登校の子やいじめを受けた子など、大人たちに声が届かない子達の意見を聞くべき、という前向きな意見も出ている。子どもの意見を反映させて政策に生かそうという意識もち、子ども基本法ができたことを日退教も発信してほしい。

石川博単会代表



2024年3月19日の総がかり行動が100回を迎えた。

10年間続けてきた私たちの力がこれからの改憲阻止につながると思う。

滋賀退教 大谷和雄単会代表



子ども基本法について。不登校の子ども達はこの十年間で二〜三倍、急激に増えている。滋賀でも子ども若者審議会が条例検討部会を設けて



鍋島初美副会長

きた。北海道の地域代表も5ブロックのうち1つは女性を入れることとなった。だまっっていると世の中変わらない。女性を半数にしたい。

埼玉退教 石川博単会代表



2024年3月19日の総がかり行動が100回を迎えた。

10年間続けてきた私たちの力がこれからの改憲阻止につながると思う。

滋賀退教 大谷和雄単会代表



子ども基本法について。不登校の子ども達はこの十年間で二〜三倍、急激に増えている。滋賀でも子ども若者審議会が条例検討部会を設けて

意見表明権だ。検討部会の中

埼玉退教 石川博単会代表



2024年3月19日の総がかり行動が100回を迎えた。

10年間続けてきた私たちの力がこれからの改憲阻止につながると思う。

滋賀退教 大谷和雄単会代表



子ども基本法について。不登校の子ども達はこの十年間で二〜三倍、急激に増えている。滋賀でも子ども若者審議会が条例検討部会を設けて

意見表明権だ。検討部会の中

埼玉退教 石川博単会代表

一致で取り組むよう指示が出ている。具体的には情宣資料を活用して①水岡さんを浸透させ、日政連議員の必要性を流す、②インターネットを利用して、本人と対話をするネットカフェなどに取り組む、

③ブロックごとに家庭訪問などに取り組む、とある。教育・平和・福祉のため、現職の活動しにくいところを補う活動をしよう。

四国ブロック

山中千枝子女性代表



四国ブロックに退教が入った。ジェンダー平等について、法律が整備されたりして

進んだ面があるが、未だに親

高知退教 門田権四郎単会代表

連議員の水岡さん支持を現退

連休明けに玄海町長が「核のゴミ」の処分地選定の

北退教 筒井比呂志単会代表

憲法押しつけ論、改正をキックバック議員が言っているが、国会無視の行き着いたところが裏金事件である。憲法を守れと言っていくのが日退教の努めではないか。

佐賀退教 坂口広則単会代表



福岡高退教 今橋省三単会代表

憲法の前文「全世界の国民が、等しく恐怖と欠乏から

免れ、平和の裡に生存する権利を有することを確認する」とあるが、日本だけに限られない。イスラエルのガザ攻撃

50周年記念レセプション、 盛大に開催!!

職教職



神田香織さん

竹田会長の挨拶の後、日教組梶原貴委員長挨拶、神田香織さんによる講演「福島への祈り」を鑑賞した後、来賓として、人見一夫退連会長、日政連水岡俊一参議院議員の挨拶を受けました。退連野田那智子事務局長による乾杯の音頭後、歓談となりました。歓談の最中に、徳茂万知子地公退副会長、北村典子退女教会会長、瀧本司教職員共済理事長、古賀ちかげ日政連参議院議員、さらに、日退教と連携している出版社「郁朋社」の猪越美樹さん、日退教の海外旅行をサポートしている旅行社「グローシーズ・サポート」の尾崎明子さんの挨拶も受けました。

今回は、40周年記念レセプション以来の10年ぶりであって、和気あいあいと交流が進み、四国ブロックのみなさんによる鳴子を鳴らしながらの「よさこい」、これに瀧本司さん、古賀ちかげ議員らも一緒に踊り、レセプションを盛り上げました。最後は、日退教坂田勲副会長による詩吟に感銘を受けながら閉会しました。



四国ブロック「よさこい」



日教組梶原貴中央執行委員長

◆編集後記◆

男と女は結婚して子どもをつくり、家庭を形成するといった日本の伝統的意識・社会構造が崩れようとしている。若い時は、苦勞しても経験を身に付け、老後にそなえるといった伝統的「常識」も若者から拒否されつつある。こうした変化の中、政治資金問題で「古い政治」を体現している自民党は、この国の多数派でなくなりつつある。しかし、「古い政治」を体現しているのは自民党だけではないようだ。未来を担う若者たちのために、「古い政治」を打破していくことに、私たちは、今せまられている。(石)



日退教坂田勲副会長



郁朋社 猪越美樹さん



グローシーズ・サポート
尾崎明子さん